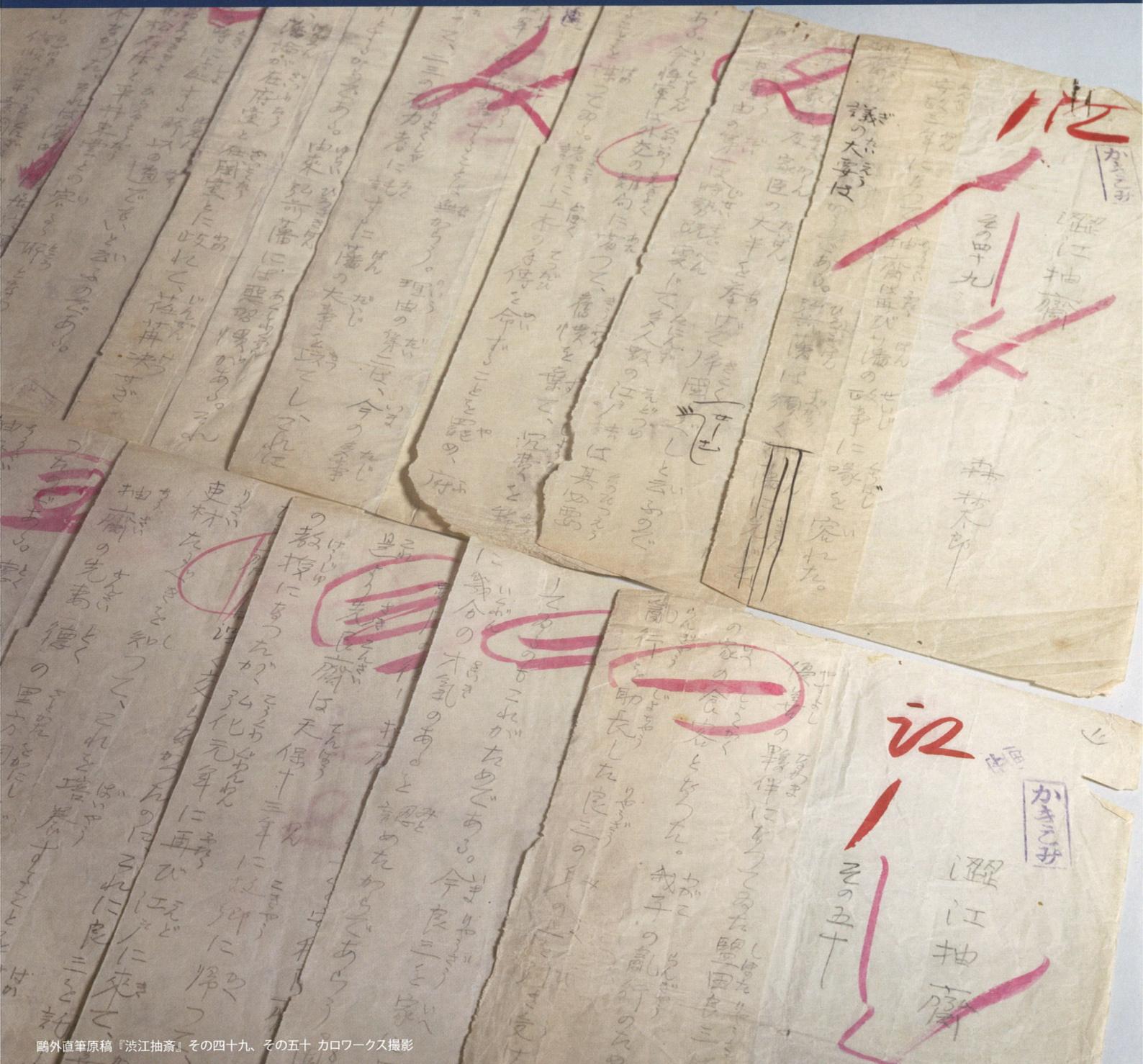


Ro
g
Ak

文京区立 森鷗外記念館NEWS

No.40



鷗外直筆原稿『渋江抽斎』その四十九、その五十 カロワーカス撮影

目次

森鷗外没後100年、文京区立森鷗外記念館開館10年によせて 成澤廣修(文京区長)、高橋唐子(当館館長)／開催中の展覧会 コレクション展「鷗外の東京の住まい」／活動報告／展示会場から／展示のお知らせ 特別展「鷗外遺産～直筆資料が伝える心の軌跡」／コラム「学芸の自由は誰が守るか——知友・岩村透と森鷗外」今橋映子(東京大学大学院教授)／これからの催しもの／カフェ便り／2022年度後期開館カレンダー／編集後記

鷗外生誕160年 没後100年 鷗外100年の森へ

文京区立森鷗外記念館が開館10周年を迎えます。

当館の建つこの地は、森鷗外旧居である観潮棲跡です。文京区は、昭和37年に当地に文京区立鷗外記念本郷図書館を建設し、鷗外記念室とともに運営してまいりました。その後、森鷗外生誕150年にあたる平成24年に当館を建設し、現在に至ります。半世紀を超える長い間、森家ゆかりの皆様、森鷗外記念会、また、森鷗外を愛する皆様から多大なるご協力を賜りましたことに、心から感謝申し上げます。

本年は、当館が開館して10年目の年であるとともに、森鷗外の生誕160年・没後100年にあたる記念すべき年です。当館をはじめ、文京区の関連部署で顕彰事業を行っています。顕彰事業により、森鷗外の業績が、文学・医学など多方面にわたることが改めて認識できます。

このような森鷗外の多才な業績について、当館はさまざまな視点と方法をもつて紹介してまいりました。開館してから10年間、ご来館された方々から多くの貴重なご意見をいただきました。また、地域の方々のご理解とご協力により、町会の行事などに館として参加する機会をいたいでいます。これらを今後の館運営に活かし、文京区と森鷗外の魅力を発見・発信し、つながる人々の輪をさらに広げる場としての森鷗外記念館を引き続き実現してまいります。

文京区長 成澤 廣修



開催中の展覧会

コレクション展

「鷗外の東京の住まい」

現在開催中の「鷗外の東京の住まい」展では、10歳で上京した鷗外と森家の東京における住まいと、鷗外が後半生を暮らした居宅・觀潮樓現・当館の現在までの歩みを展示しています。

第一章「鷗外の東京の住まい」では、鷗外や森家が暮らした向島(墨田区)、千住(足立区)、根岸(台東区)、池之端(台東区)、向丘(文京区)、そして千駄木(文京区)、觀潮樓それぞの住まいを紹介しています。ほとんどの住まいが現存していませんが、家族や友人たちの随筆、住所が記された書簡、現在確認できる間取りや写真、そして所在地を示す地図などから、鷗外が暮らした住まいを思い浮かべてみてください。

第二章「鷗外顕彰の地・觀潮樓」では、鷗外がこの世を去り、建物も火災と戦災で焼失した觀潮樓跡地が顕彰の地として蘇り、「沙羅の木」詩碑の設置、文京区立鷗外記念図書館を経て、現在の文京区立森鷗外記念館開館に至る道程を振り返ります。当時の様子を示す図面や写真などは、昭和時代の文京区とゆかりのある方にとって、懐かしく感じる資料かもしれません。

本展は当館所蔵資料を中心に展示するコレクション展ですが、今年が鷗外生誕160年・没後100年、そして11月に当館の開館10周年を迎えることから、特別に他の施設等よりお借りした資料を展示しています。詩碑と図書館を設計した建築家・谷口吉郎の自筆原稿や図面(金沢市)、谷口吉郎・



コーナー1 展示

同時開催

「周年記念を迎えた文学者たち」

樋口一葉、正岡子規、石川啄木など、2022年に周年記念を迎える文学者について、鷗外との交流を中心紹介しています。

文京区立森鷗外記念館が開館10周年を迎えます。詩碑と図書館を設計した建築家・谷口吉郎の自筆原稿や図面(金沢市)、谷口吉郎・

展示期間・

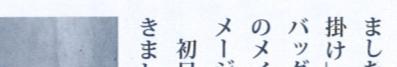
8月5日(金)～10月16日(日)の開館日

活動報告

森鷗外没後100年 鷗外忌



7月9日、
雨上がりの
晴天下、三
鷗の禅林寺
にて鷗外忌
記念集会が
開催されました。



墓前には多くの方々がお見えになり、それぞれが静かに白菊を手向け鷗外を偲びました。その後

の文学座談会では成澤文京区長のご挨拶を皮切りに、同席された方々の鷗外へ、また文学への熱い思いを聞くことができ、背筋が伸びる時間となりました。どのような状況下でも、森鷗外記念会の皆様が没後100年の今日まで鷗外忌記念集会を継続して開催されていることへ感謝の意を表します。

書籍フェア＆スタンプラリーへのご参加ありがとうございました！



ぶらりパックのカラーはグリーン、カーキ、ベージュの3色
18箇所で森鷗外関連書籍セレクトフェアを開催しました。それと連動して、フェアを行なう書店のうち17店舗と当館で「森鷗外を探しに書店をぶらりスタンプラリー」を実施しました。

スタンプラリーは、17店舗中2店舗を購入し、当館特別展「読み継がれる鷗外」を

平成24年に開館した文京区立森鷗外記念館は今年の11月1日で10周年を迎えます。開館以来、当館では42の展覧会、350以上の講演会・イベントを実施、来館者数は延べ約43万人と、多くの方々をお迎えいたしました。これもひとえに皆様のご支援のおかげと心より感謝申し上げます。

開館からの10年、元号は平成から令和へ変わり、災害、感染症、戦争と世界中が未曾有の災禍にあります。森鷗外が生きた明治、大正時代も近代化を目指すべく日本は激動の時代がありました。鷗外が暮らしたこの文京区千駄木には彼の生きた足跡や逸聞が数多くあり、生前の姿を思い描く事ができます。これからも鷗外の継承を軸に、文京区の魅力を発信して参りますので、今後とも何卒よろしくお願い申し上げます。

文京区立森鷗外記念館館長 高橋 唐子



月31日終了)を観覧した方にそれぞれスタンプを押印。3つのスタンプを集めた方に景品を差し上げるイベントです。スタンプラリー台紙のしおりは当館や書店で配布しました。景品は「文庫本を持って近所にお出掛け」をテーマとしたミニバッグ「ふらりバッグ」です。生誕160年・没後100年のメインビジュアル「鷗外百年の森へ」をイメージした3色で展開しました。

初日より連日参加者の方にご来館いただきました。その多くが、書店で見つけて興味を持たれた方々でした。

店でフェアが行われ、書籍をとおして多くの方に森鷗外や鷗外作品を知つていただけとなり、大きな節目である本年に相応しいイベントとなりました。



ぶらりパックのカラーはグリーン、カーキ、ベージュの3色

2022年度後期 文京区立森鷗外記念館 開館カレンダー

10月

日	月	火	水	木	金	土
					1	
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31					

11月

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30			

12月

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

1月

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

2月

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4			
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28				

3月

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

コレクション展「鷗外の東京の住まい」
8月5日(金)～10月16日(日)

特別展「鷗外遺産～直筆資料が伝える心の軌跡」
10月22日(土)～2023年1月29日(日)

コレクション展「美奈和集(仮称)」
2月3日(金)～3月31日(金)予定

開館情報は予告なく変更になる場合があります。詳しくは当館までお問い合わせください。

さあ、ついにこの秋、11月1日には開館10周年を迎える文京区立森鷗外記念館が、ついに開館します。これまでの経緯を報告のため記者発表を行い、数多くのメディアで報道されました。イベント企画しておらず、引き続きご期待ください!

7月31日、特別展「読み綴る鷗外」が盛況のうちに終了しました。節目の年を機に鷗外への関心が高まる中で、会期中の7月9日には100回目の鷗外忌を迎えたこともあり、開館以来の大勢の方々にご来館いただきました。そして、鷗外生誕160年、没後100年記念事業としては最後の展覧会である、特別展「鷗外遺産～直筆資料が伝える心の軌跡」がいよいよ10月22日より始まります。5頁でも紹介しましたとおり、この記念の年を祝うかのように、鷗外に関する新出資料が各所で発見されました。特に、表紙に掲載している鷗外直筆原稿『渋江抄齋』については、一部ではありますですが、新たな作品原稿の収蔵も実現されました。当館では、『渋江抄齋』の発見から収蔵までの経緯を報告のため記者発表を行い、数多くのメディアで報道されました。

編集後記



→ 2022年開館10周年

文京区立 森鷗外記念館
Mori Ogai Memorial Museum

交通案内

電車をご利用の場合

- ・東京メトロ千代田線「千駄木」駅 1番出口 徒歩5分
- ・東京メトロ南北線「本駒込」駅 1番出口 徒歩10分
- ・都営三田線「白山」駅 A3番出口 徒歩15分
- ・JR線・京成線「日暮里」駅 西口 徒歩15分

バスをご利用の場合

- ・都バス 草63番系統「千駄木一丁目」下車 徒歩1分
- ・都バス 上58番系統「团子坂下」下車 徒歩5分
- ・B-ぐる千駄木・駒込ルート「19特養ホーム千駄木の郷」下車 徒歩5分
- ※一般の駐車場がございませんので、公共交通機関をご利用ください

〒113-0022 東京都文京区千駄木1-23-4 TEL: 03-3824-5511

URL: <https://moriogai-kinenkan.jp>

開館時間 10:00～18:00 (最終入館は17:30)

休館日 每月第4火曜日 (祝日の場合は開館、その他例外あり)、年末年始 (12月29日～1月3日)、及び展示替期間、煙草期間等

印刷物番号 D0122029